

浅間山

○概況（平成 15 年 2 月）

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

噴煙活動はやや活発な状態が続いており、特に、6 日 12 時 01 分には極小規模な噴火（火山灰を含んだ灰白色の噴煙）が発生しました。浅間山での噴火は、1990 年（平成 2 年）7 月 20 日以来となります。今回の噴火の規模は、火山性微動の振幅や継続時間、降灰の状況から、前回の噴火（1990 年 7 月 20 日の微噴火）より更に小規模なものとみられます。

地震活動も、やや活発な状態が続いています。また、火口底の温度も高い状態が続いていると考えられます。今月の 7 日および 19 日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は 7 日は 1900～2700 トン/日、19 日は 1000～1900 トン/日、と多い状態が続いています。以上のことから火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な活動は起こる可能性はありますが、現時点では大規模な活動につながるような微動の発生や地殻変動は観測されておりません。山頂付近では少量の降灰や火山ガス、また風下側の山肌を流下する火山ガスには注意が必要です。

火山名	火山情報名	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 1 号	6 日 15:45	噴火の状況 降灰の状況、噴火の規模
	火山観測情報第 2 号	6 日 18:40	

○地震活動の状況

2000 年 9 月から地震活動のやや活発な状態が続いています。1 日あたりの地震回数は 10～40 回程度で推移しています（全て無感地震、表 1、図 1、図 2）。火山性微動は 6 日の噴火に伴い、規模の小さい微動が 1 回観測されました（2 月はこの微動 1 回のみです）。1990 年 7 月 20 日の噴火に伴い発生した微動と比較しますと振幅および継続時間は 1/4 程度でした。

表 1 火山性地震日別回数表（浅間山）

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	4	
低周波地震	19	11	42	13	12	8	9	13	24	33	184	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
低周波地震	37	24	26	20	19	22	10	33	21	20	232	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日			旬計	月計
高周波地震	0	0	0	1	0	0	0	0			1	8
低周波地震	23	18	20	24	19	24	13	29			170	586

短期・日別 地震活動推移（最近 2 年間の火山性地震の日別回数）

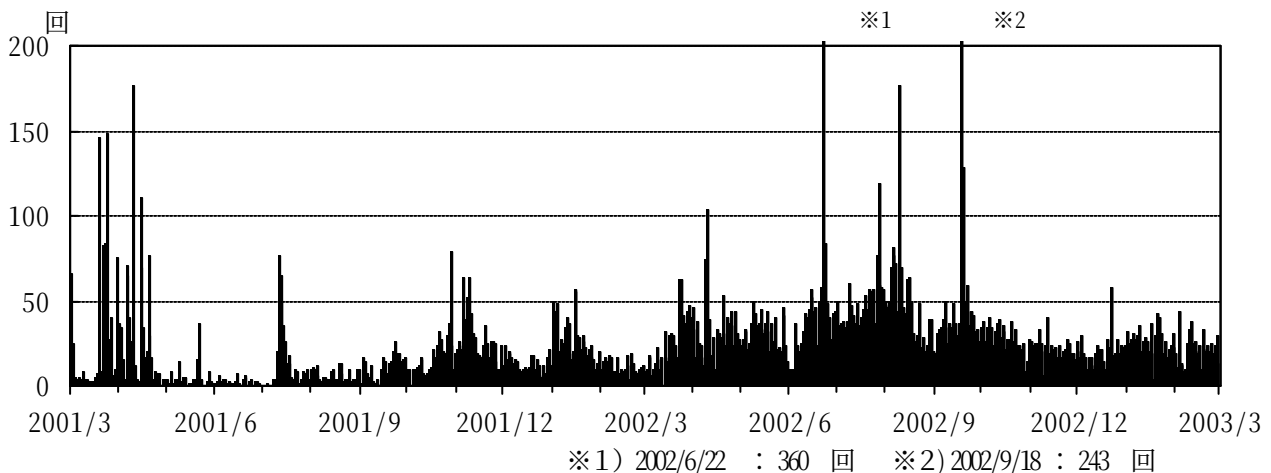


図 1 浅間山 火山性地震日別回数（2001年3月1日～2003年2月28日）

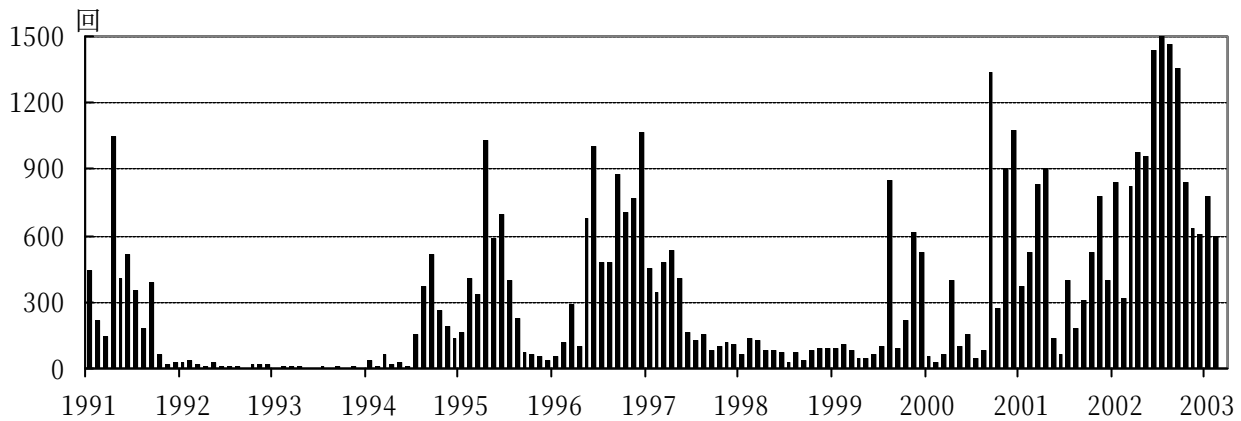
長期・月別 地震活動推移（1991 年 1 月以降の火山性地震の月別回数）

図 2 浅間山 火山性地震月別地震回数（1991年1月～2003年2月）

○噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、噴煙活動はやや活発な状態が続いています（図 3～5）。

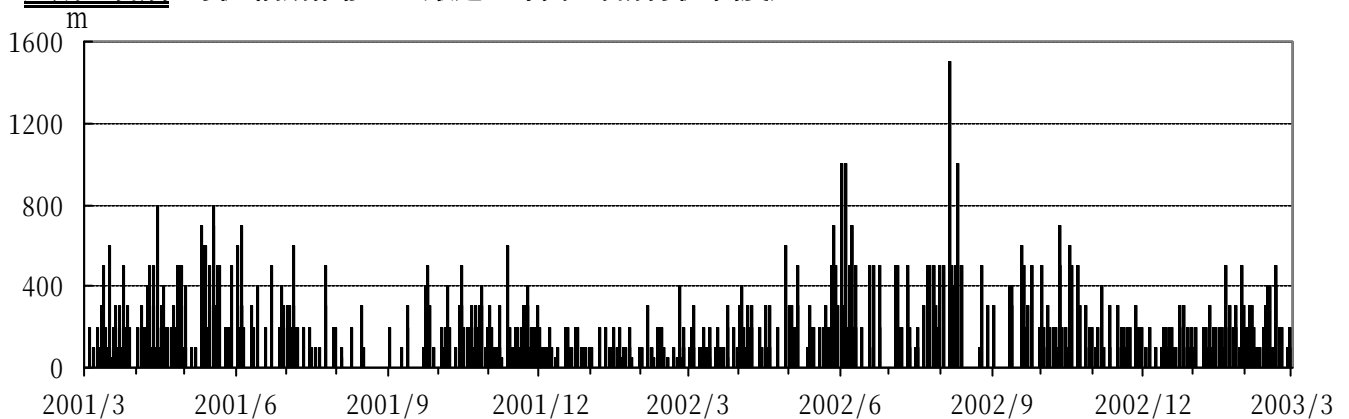
短期・日別 噴煙活動推移（最近 2 年間の日別噴煙高度）

図 3 浅間山 日別噴煙高度（2001年3月1日～2003年2月28日）

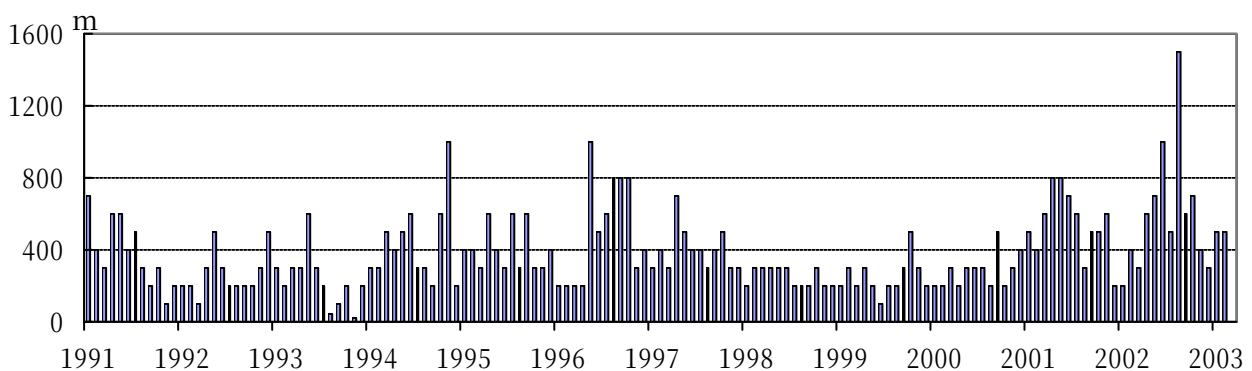
長期・月別 噴煙活動推移（1991 年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量）

図 4 浅間山 月別噴煙高度（1991年1月～2003年2月）

*09・15 時の定時観測のうちで最大を示しています

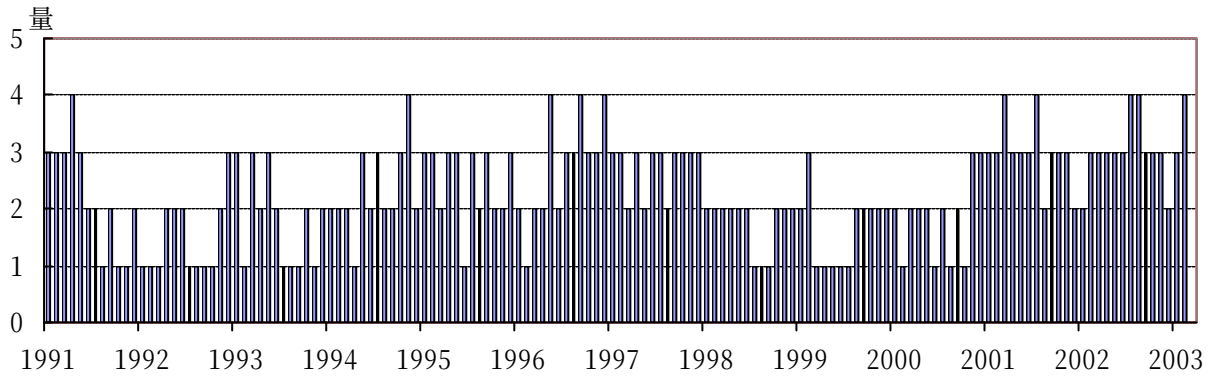


図5 浅間山 月別噴煙量（1991年1月～2003年2月）

*09・15時の定時観測のうちで最大を示しています

○火口温度の状況

今月は、群馬県林務部設置の高感度カメラおよび赤外カメラのレンズが雪に覆われたことにより、火口底内の様子を十分に把握できないことが多かったものの、時折、赤外カメラにより火口底内の高温部分が確認されており（図6、図7）、依然火口底温度の高い状態は続いていると考えられます。



図6 2月7日23時20分頃の映像



図7 2月8日3時20分頃の映像

○火山ガスの状況

2月7日と19日に実施した二酸化硫黄の放出量の観測結果は、7日は約1900～2700トン／日、19日は約1000～1900トン／日でした（図8）。いずれの日の放出量も1000トン／日を上回っており、依然多い状態となっています。また、山頂から放出された火山ガスが山肌を下りながら彼方までたなびく様子が確認されています（図9）。

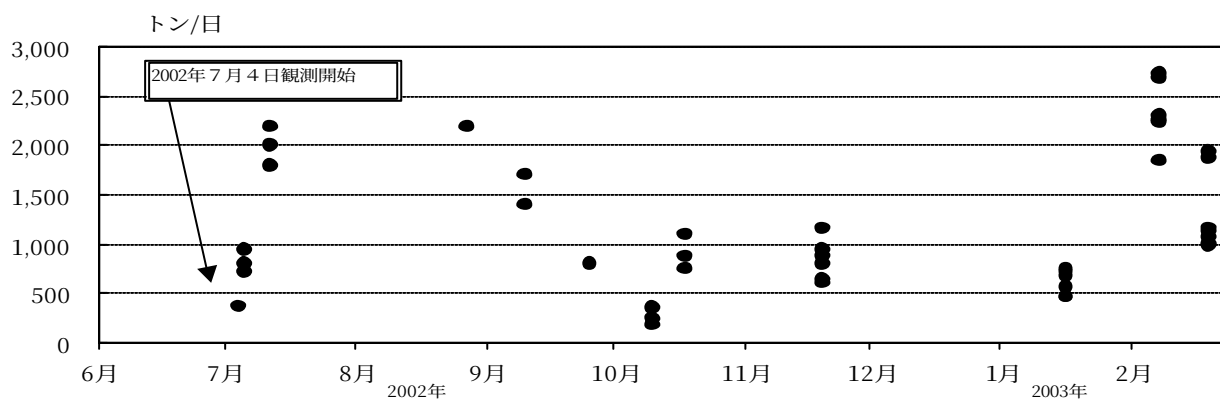


図8 浅間山 二酸化硫黄放出量（2002年7月～2003年2月）



図 9 山肌を流下し彼方までたなびく火山ガス 2 月 7 日 12 時、北東側山麓から撮影）

○6 日の噴火

6 日 12 時 01 分に極小規模な噴火が発生し、極少量の有色噴煙（灰白色）が火口縁上 300m まで上がり、南東に流れているのを確認しました（図 10～12）。有色噴煙の噴出は、数分後には収まりました。6 日に長野県警察本部ならびに 7 日に群馬県および気象庁が行った上空からの調査によりますと、山頂付近で少量の降灰が確認されました。その後、有色噴煙は観測されていません。浅間山での噴火は、1990 年 7 月 20 日以来で、今回の噴火の規模は、火山性微動の振幅や継続時間、降灰の状況からみて、前回の 1990 年 7 月 20 日の微噴火（7 月 20 日早朝に山頂火口で発生した噴火で、爆発音もなく少量の降灰が浅間山の東側で確認されました。降灰の範囲は、山頂火口の東側山麓で峰の茶屋から北軽井沢のゴルフ場（火口から北東約 8 km）にかけて極少量の降灰の跡が認められました）より更に小規模のものとみられます。GPS 及び傾斜計による地殻変動観測では、異常な変化は観測されていません。

2 月 6 日 12 時 01 分の極小規模な噴火の映像



図 10



図 11



図 12

○地殻変動の状況

GPS 観測ならびに傾斜観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした（図 13～15）。

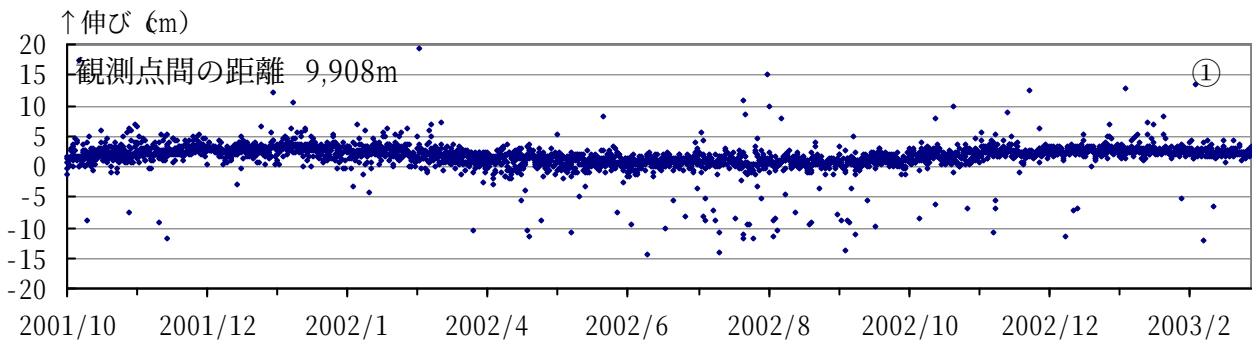


図13 浅間山 GPS観測結果 2001年10月 1日～2003年 2月28日)

①追分－高峰高原 基線長

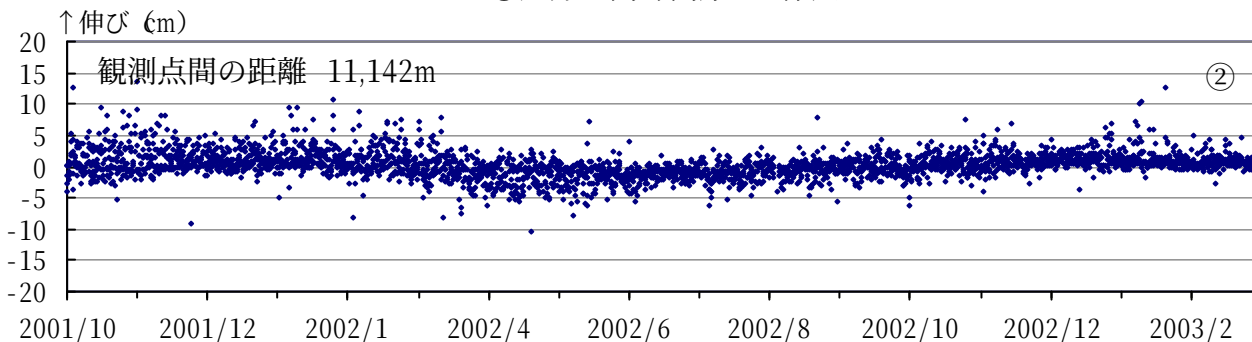


図14 浅間山 GPS観測結果 2001年10月 1日～2003年 2月28日)

②追分－鬼押出し 基線長

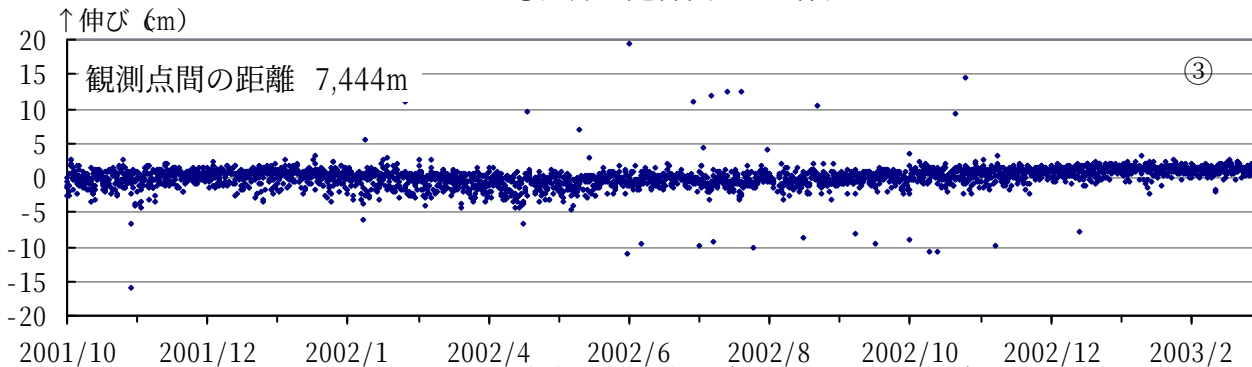


図15 浅間山 GPS観測結果 2001年10月 1日～2003年 2月28日)

③高峰高原－鬼押出し 基線長

